

日本労働年鑑 第51集 1981年版
The Labour Year Book of Japan 1981

第二部 労働運動

XIV 政党

3 日本社会党

5 国際活動、その他

飛鳥田委員の訪米

日本社会党のこの一年間における国際活動でもっとも注目されたのは、七九年一月一三日から一〇日間、飛鳥田委員長を団長とする代表団をアメリカに派遣したことであった。社会党代表団の訪米は、五七年の第一次訪米団(団長河上丈太郎党顧問)、七五年の第二次訪米団(団長江田三郎副委員長)について三度目であったが、現職の委員長を団長とする訪米団の派遣は、これが最初であった。代表団には、このほか河上国際局長が副団長として、また上田教宣局長、曾我、大塚両企画担当中執、杉山国際部副部長、天辰機関紙局員が団員として加わった。代表団はワシントン、ニューヨークなどを訪れ、マンデル副大統領、バンス国务長官ら政府関係者、オニール下院議長、ケネディ上院議員ら議会関係者、ウィルソン研究所、ブルッキングス研究所、コロンビア大学、ハーバード大学などの研究機関、ワシントン・ポスト紙、タイム誌など報道関係者、さらに財界人などと会談した。またニューヨークの国連本部でワルトハイム事務総長と会見し、国際情勢について意見を交換した(『月刊社会党』八〇年一月号参照)。

社会主義諸国との交流

しかし、社会党の国際活動として目立つのは、やはり社会主義諸国の共産党との交流である。とくにソ連共産党との相互交流は頻繁で、七九年には九つの代表団が訪ソし、ソビエトからは四つの代表団が来日した。内訳はつぎのとおりである。

【訪ソ】

六月 理論センター訪ソ代表団(高沢寅男団長)、青年活動家代表団(深田肇団長)、七月 日ソ問題特別委員会訪ソ団(山崎昇団長)、八月 京都府本部キエフ友好親善代表団、第一次訪ソ漁業代表団(川村清一団長)、九月 ソ連友好訪問団(松沢兼人団長)、十一月 千葉県本部カリーニン州友好訪問団、一二月 東京都本部モスクワ友好訪問団、第一次訪ソ活動家代表団(長谷川正三団長)。

【来日】

七月 ソ連理論活動家訪日団、ソ連共産党機関紙代表団、十一月 岩手県本部招待リヤザン州委員会代表団、一二月 ソ連共産党活動家代表団。

このほか、七九年六月、中国に友好訪中団(下平正一団長)を派遣したほか、朝鮮に朝鮮問題対策特別委員会訪朝団(六月)と青年活動家訪朝団(七月)を、またブルガリアに青年活動家代表団(六月)と親善訪問団(七月)をそれぞれ派遣した。また一〇月には青年活動家代表団がイラクを訪れ、

一一月にはルーマニア共産党第一一回大会に下平副委員長が出席した。

国民シンポジウム

社会党は総評とともに「八〇年代の展望と革新の課題」をテーマとするシンポジウムを、七九年七月三日の東京をかわきりに、名古屋(八月二日)、福岡(八月二二日)、札幌(八月二三日)と全国四カ所で開催した。この会合は社会党・総評のいわゆる「五人委員会」で開催が決まったもので、各会場では飛鳥田委員長または多賀谷書記長が主報告をおこない、総評側から榎枝議長または富塚事務局長が副報告をおこなった。これをうけて、三人から五人の「パネラー」が意見を述べ、会場参加者も討論に加わった。各会場の討議内容については『社会新報』七九年八月三日付、同七日付、同二八日付参照。またこのシンポジウムの討論結果をまとめた「国民シンポジウム第一次報告書」と、シンポジウムの「コーディネイター」の一人であった高木郁朗山形大助教授のまとめの報告が『月刊社会党』七九年一一月号にある。

エネルギー問題で国際シンポジウム

社会党は八〇年四月一日、「新しいエネルギー戦略——ソフト・エネルギー・パスの展望」と題する国際シンポジウムを東京のホテル・ニューオータニで開いた。これは七八年秋の「教育シンポジウム」につづく二度目の国際シンポジウムで、環境保護団体「地球の友」イギリス代表のエイモリー・ロビンズ氏を招き、日本のエネルギー問題の専門家もまじえて討議がおこなわれた。ロビンズ氏は、エネルギー供給の中心を太陽熱、風力など再生可能なエネルギーにおき、供給増でなく省エネルギーによる需要減をめざす「ソフト・エネルギー・パス」の提唱者で、その実現可能性などをめぐって論議がかわされた。詳細は『月刊社会党』八〇年六月号、および『社会新報』四月四日付、八日付参照。

日本労働年鑑 第51集 1981年版

発行 1980年11月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

労働旬報社

****年**月**日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1981年版(第51集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
